

ワールド・トレイルズ・カンファレンス概要

●ワールド・トレイルズ・カンファレンス

ワールド・トレイルズ・カンファレンス（World Trails Conference：WTC）は、グローバルなトレイル産業の関係者が集まる国際的な場として、2010年から開催されています。カンファレンスでは、世界中のトレイルに関する新しい傾向やベストプラクティス（最優良事例）の紹介や最新の情報や知識を共有するとともに、質の高いトレイルを持続可能な形で開発、維持するための、協力体制やネットワーク構築に取り組んでいます。また、地域の人々の生活に利益をもたらす、自然保護を促進し、地域に経済的効果を与えるトレイルツーリズム及びトレイルの開発を推進しています。カンファレンスは、世界の多様性に富んだトレイルのショーケースとなっており、すべてのトレイル関連産業にとって、トレイルを通じて世界をよりよくするための見識やインスピレーションを共有する良い機会となっています。



●ワールド・トレイルズ・カンファレンス開催の歴史

| 大会名 | 日程 | 場所 |
|---------------------------|----------------|-------|
| 第6回ワールド・トレイルズ・カンファレンス鳥取大会 | 2016年10月14～17日 | 日本鳥取県 |
| 第5回ワールド・トレイルズ・カンファレンス | 2015年1月15～17日 | 韓国濟州島 |
| 第4回ワールド・トレイルズ・カンファレンス | 2014年1月15～17日 | 韓国濟州島 |
| 第3回ワールド・トレイルズ・カンファレンス | 2012年10月29～31日 | 韓国濟州島 |
| 第2回ワールド・トレイルズ・カンファレンス | 2011年11月7～9日 | 韓国濟州島 |
| 第1回ワールド・トレイルズ・カンファレンス | 2010年11月7～9日 | 韓国濟州島 |

ワールド・トレイルズ・ネットワーク概要

●ワールド・トレイルズ・ネットワーク

ワールド・トレイルズ・ネットワーク（World Trails Network：WTN）は、スイスのジュネーブに拠点を置く国際的な非営利団体です。WTNは、優れたトレイル事業の創出や改善、保護を促進するため、世界各地の多様性に富むトレイルを結びつける努力を重ねています。世界のトレイル関連団体、トレイル利用者、またその他アウトドア愛好者を引き合わせるにより、世界のトレイルの向上のためのグローバルな協力体制やネットワークを育てていくことを目的としています。



●ワールド・トレイルズ・ネットワークの主な事業

WTNは、人々と自然・野外・文化遺産を繋ぐ役割を果たす様々なトレイル団体との国際協働と連携を推進しています。

WTNは次のことを促進しています。

- 環境保護
- 持続可能な開発
- ベストマネジメントプラクティス（最優良管理事例）
- トレイルに関する研究結果の共有
- トレイルの満足度への取り組み
- 地域との連携
- 正確性の高い情報
- クロスマーケティング（顧客の相互紹介）の機会の促進
- トレイルに関する価値観の共有、アウトドアや自然の中での活動的なライフスタイルの促進

●ワールド・トレイルズ・ネットワーク委員会メンバー

ワールド・トレイルズ・ネットワーク委員会メンバーは全員ボランティアであり、月に一回インターネットの電話会議で、5つの重要課題を前進させるべく議論を行っています。

● ワールド・トレイルズ・ネットワーク委員会メンバー

WTN委員会メンバーは全員ボランティアであり、月に一回インターネットの電話会議で、5つの重要課題を前進させるべく小委員会を組織して議論を行っています。

● 初代ワールド・トレイルズ・ネットワーク 委員会構成員 (2012.10~2014.01)

| | |
|---------------------|---|
| 会長 | ガレオ・セインツ (リム・オブ・アフリカ) |
| 知識資源共有小委員会 | ロバート・サーンズ (アメリカン・トレイルズ協会) ローラ・ベルレビル (アパラチアン・トレイル保存協会) ジョン・フィ (韓国歩く道連合) |
| マーケティング・プロモーション小委員会 | イ・スジン (社団法人済州オルレ) ガレオ・セインツ (リム・オブ・アフリカ) ジャッキー・ランデル (ブルース・トレイル保全協会) |
| カンファレンス・イベント小委員会 | ジョン・ジヘ (社団法人済州オルレ) ロバート・サーンズ (アメリカン・トレイルズ協会) ジャッキー・ランデル (ブルース・トレイル保全協会) リズ・ネルソン (ヨーロッパ徒歩旅行者協会) |
| 戦略・開発小委員会 | ローラ・ベルレビル (アパラチアン・トレイル保存協会) ジョン・ジヘ (社団法人済州オルレ) ガレオ・セインツ (リム・オブ・アフリカ) |

● 2代ワールドトレイルズ ネットワーク委員会構成員 (2014.01~)

| | |
|-------------------------|--|
| 会長 | ガレオ・セインツ (リム・オブ・アフリカ) |
| 副会長 | ローラ・ベルレビル (アパラチアン・トレイル保存協会) |
| 総務 | ジャッキー・ランデル (ブルース・トレイル保全協会) |
| 知識資源共有小委員会 | ロバート・サーンズ (アメリカン・トレイルズ協会) ジョン・フィ (韓国歩く道連合) カーステイン・ステンダー (ビバルマン・トラック) |
| マーケティング・プロモーション 小委員会 | ガレオ・セインツ (リム・オブ・アフリカ) ロバート・サーンズ (アメリカン・トレイルズ協会) |
| 文化・生物多様性小委員会 | フィボス・ツサラヴォボロス (ギリシャの道) フセイン・エリュアート (トルコ文化の道協会) |
| カンファレンス・イベント小委員会 | ジョン・ジヘ (社団法人済州オルレ) リズ・ネルソン (ヨーロッパ徒歩旅行者協会) ヒロアキ・キシダ (NPO法人未来) |
| 戦略・開発小委員会 | ローラ・ベルレビル (アパラチアン・トレイル保存協会) ガレオ・セインツ (リム・オブ・アフリカ) ミルバ・パコ (レバノン・マウンテン・トレイル協会) |

URL <http://worldtrailsnetwork.org/>

✉ info@worldtrailsnetwork.org

アジア・トレイルズ・ネットワーク概要

●アジア・トレイルズ・ネットワーク

アジア・トレイルズ・ネットワーク（Asia Trails Network：ATN）は、アジア地域の主要なトレイル機関、団体及びウォーキング協会などが中心となり、2014年1月に韓国済州（チェジュ）で公式に発足しました。

トレイルについての課題や価値を共有し、トレイル関連産業の持続的な発展の構築におけるイニシアチブをとることを目的として、トレイルに関する知識の共有や効果的なクロスプロモーションのためのプラットフォーム、健康的なウォーキング旅行文化の創出、自然資源の保護、企業マーケティングの推進などに取り組んでいます。グローバルなトレイルネットワークを構築する上でも、これらアジアの主要なトレイルやウォーキング関連団体が主要な役割を担っています。



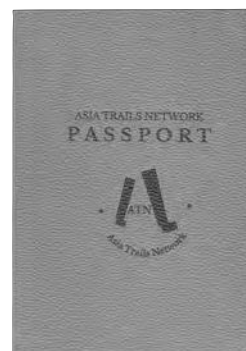
●アジア・トレイルズ・ネットワークの主な事業

- ・自然資源保存のためのキャンペーン及び活動
- ・トレイルの調査及び関連知識資源の共有
- ・トレイルを通じた健康と福祉の増進及び生活水準の向上事業の推進
- ・ウォーキング旅行の活性化及び健康なウォーキング旅行文化の構築
- ・企業マーケティング及び広報
- ・ワールド・トレイルズ・ネットワークとの連携による国際会議などのトレイル関連イベント及び事業の推進

●共同推進事業

●アジア・トレイルズ・ネットワークパスポート

アジア・トレイルズ・ネットワークパスポートはアジア地域のトレイルコースを巡るウォーカー向けのパスポートで、アジア・トレイルズ・ネットワーク認定のトレイルコースで利用できます。各トレイル上の指定された場所で、スタンプを一つ以上押しいただきます。パスポートをお持ちの方には、各アジア・トレイルズ・ネットワーク認定トレイルにて、ささやかな記念品や割引サービスなどの特典をご用意しています。またすべてのトレイルのスタンプを集めた方には、完歩証明書が贈呈されます。



アジア・トレイルズ・ネットワークパスポート関連お問い合わせ：

アジア・トレイルズ・ネットワーク事務局

[中国] マウンテン・ジャーニー・チャイナ

【Tel】+86(0)10-6836-8450 【e-mail】 liuxmwd@sina.com

[日本] 特定非営利活動法人未来

【Tel】+81(0)858-24-5725 【e-mail】 civic@npo-mirai.net

[大韓民国] 社団法人済州オルレ

【Tel】+82(0)64-762-2190 【e-mail】 jejuolle@jejuolle.org

●アジア・トレイルズ・カンファレンス

アジア・トレイルズ・カンファレンス（Asia Trails Conference: ATC）は、世界中のウォーキング愛好者が参加する国際的なウォーキングイベントです。期間中、参加者がともに歩き、開催地域の自然や文化、多彩なパフォーマンス、また、食文化を楽しみます。アジア・トレイルズ・カンファレンスは、アジアの代表的なウォーキングイベントと連携して、2年に1回、トレイルや国を変えて開催されます。

●第1回アジア・トレイルズ・カンファレンス

日程／場所：2014年11月／大韓民国 チェジュ

連携イベント：2014 済州オルレ・ウォーキング・フェスティバル

(www.ollewalking.co.kr)

●第2回アジア・トレイルズ・カンファレンス

日程／場所：2015年10月／鳥取県

連携イベント：アジア・ウォーキング・フェスティバル（アジア・トレイルズ・カンファレンス）

●第3回アジア・トレイルズ・カンファレンス

日程／場所：2017年／未定

第6回ワールド・トレイルズ・カンファレンス鳥取大会

参加団体概要

アジア

● 中国

国際市民スポーツ連盟中国本部

● バイル湾湿地-ジンジャン・グリーンウェイ 参加年 (2010/2014/2015/2016)

✉ ivv2009@163.com

URL www.chinawalking.net.cn

qiaojin1958@163.com



国際市民スポーツ連盟中国本部 (CVA)/北京毎日東方ウォーキングスポーツセンターは、2002年に設立し、2004年、中国の代表として国際市民スポーツ連盟 (IVV) に加入した。CVAは中国でIVVの事務を運営する。

CVAの4つの事業：大型国際ウォーキング大会、ウォーキング旅行、トレイルの整備、アウトドア教育トレーニング。
公式サイト：www.chinawalking.net.cn

2016年には中国のカナスで国際標準ウォーキング旅行トレイルを整備した。

CVAは世界諸外国と連携し、ウォーキング旅行とトレイルの整備、アウトドアウォーキング教育、トレーニングなどの分野で学び合い、助け合い、共に向上する。

マウンテン・ジャーニー・チャイナ

● 中国国家登山路 (2014/2015/2016)

✉ liuxmwd@sina.com (Tommy)

URL www.nts.cn

286764674@qq.com (Gina)



2009年から現在までの間に、国立トレイルシステム (NTS) は中国国内の14のトレイルを企画、設計した。トレイルは浙江省、山東省、四川省など、国中の広い地域に広がっており、全長は1,600kmに及ぶ。国立トレイルシステムは次のようないくつかの主要項目から構成されている。

1. 路面システム
2. 安全体制システム (緊急救援システムを含む)
3. 環境保護システム
4. サービスシステム

国立トレイルシステムはより優れたトレイルを開発し、全ての旅行者に安全で健康かつ科学学習ができる環境を提供するよう努力している。

● 日本

特定非営利活動法人日本ロングトレイル協会

(2016)

URL <http://longtrail.jp/>

特定非営利活動法人日本ロングトレイル協会は、日本においてロングトレイルの普及を図るとともに、全国各地のトレイル運営機関・団体との広報活動や情報交流などにより、海外も含めた多くの人々を惹き付ける持続可能なトレイルの開設と整備を行うこと、また、その地域の観光活性化に寄与することを目指している。現在、18のトレイル (整備中含む) が加盟しており、総延長は1,800kmを超える。

一般社団法人全日本ノルディック・ウォーク連盟

● ジャパンノルディック・ウォークプレミアリーグ

(2016)

✉ info@nordic-walk.or.jp

URL <http://www.nordic-walk.or.jp/>



2009年5月アジア初のIVVオリンピックアードが日本で開催されたことが設立の起源。独自の運動強度別の指導理論を確立し「総ての人々に有益な北欧ウォーキングスタイルの普及・啓発」をスローガンに日本全国で活動、現在3,500人を越える公認指導員を有し2016年4月にはメディカル・ノルディックウォーキングという新たな概念を打ち立て超高齢社会の救世主として更に活動の幅を広げる。全国でJNWプレミアリーグの56大会を展開し地域の観光振興にも貢献している。

一般社団法人日本ウォーキング協会

(2016)

✉ jwa@walking.or.jp

URL <http://www.walking.or.jp>



1964年10月「東京オリンピック」が開催された東京で、北米を徒歩で横断した当時の早稲田大学生が仲間と共に「歩け歩けの会」を誕生させた。

協会の主な事業目的は、ウォーキング運動の実践・育成事業、自然保護思想の普及事業、健康・体力づくり事業及びその一環としてのウォーキング大会等の開催、ウォーキング運動に関する公認指導員の養成・資格認定事業で、都道府県ウォーキング協会との連携で事業を進めている。

九州オルレ認定地域協議会、九州観光推進機構

● 九州オルレ

(2011/2012/2014/2015/2016)

✉ i-yumi@welcomekyushu.jp
qtp@welcomekyushu.jp

URL www.welcomekyushu.jp/kyushuolle



社団法人済州オルレと協力し、日本に済州オルレのトレンドを広めた。九州を横切る九州オルレを利用するハイカー達は、固有のナチュラルな視点から地域の文化と歴史を楽しむことができる。九州オルレ認定地域協議会は、九州オルレ各コースのブランドの維持管理と自主的な広報及び情報交換のため2014年2月に発足した。

鹿児島県自然保護課

● 奄美世界自然遺産トレイル（仮称）（コース選定中）

(2016)

✉ amami-worldheritage@pref.kagoshima.lg.jp

鹿児島県では、市町村と連携しながら、世界自然遺産登録候補地を含む奄美群島をつなぐロングトレイルのコース選定を進めている。

亜熱帯の森やマングローブ、白い砂浜、サンゴの石垣の集落など奄美ならではの魅力とふれあえる道を地域住民と一緒にこれから選んでいく。

2016年からコース選定を開始し、コースが完成した地域から順次開通していく予定。

特定非営利活動法人未来

●ウォーキングリゾートとっとり

(2011/2012/2014/2015/2016)

✉ civic@npo@mirai.net

URL <http://npo-mirai.net/public/>

特定非営利活動法人未来は、「地域と子どもの未来を創る」を理念に活動しているNPO団体で2004年1月に設立された。ウォーキングがもたらす効能が、きっと鳥取県を元気にする。そう確信して、未来はウォーキングや健康でのまちおこしを推進している。「ウォーキングリゾート」とは未来が作った造語で日本で「ウォーキングリゾート」を作ること目標に掲げ、SUN-IN未来ウォークをメインイベントとして鳥取県内の美しい場所や癒しの場所をウォーキング出来るコースを広めている。

山陰海岸ジオパークトレイル協議会

●山陰海岸ジオパークトレイル

(2016)

✉ info@sanin-geotrail.net

URL <http://sanin-geotrail.net/>

山陰海岸ジオパークは美しい自然や豊かな文化、歴史、食などに恵まれた地域であり、エコツーリズムやスポーツツーリズムの舞台として最適の地域である。2015年7月に山陰海岸ジオパークトレイル協議会が設立され、日本一といわれる鳥取砂丘・高い透明度を誇る浦富海岸を中心としたコース（全長40.7km）を設定した。山陰海岸ジオパークを歩くロングトレイルルートは、海形成の過程を見られるだけでなく、海を舞台とするアクティビティなども楽しめるルートとなっている。

田辺市熊野ツーリズムビューロー

●熊野古道

(2014/2015/2016)

✉ info@tb-kumano.jp

URL www.tb-kumano.jp

熊野三山へのいにしへの参詣道を熊野古道と呼ぶ。平安時代に始まった上皇たちの熊野御幸によって知られるようになった熊野信仰は、時代が下るにつれ武士や庶民にまで広がり、一時は「蟻の熊野詣」と呼ばれるほど多くの人々が熊野を目指した。

紀伊半島に広がる熊野古道は、2004年7月に「紀伊山地の霊場と参詣道」としてユネスコ世界文化遺産として指定された。

●ネパール

サマルス・ネパールの市場開発プログラム

●グレート・ヒマラヤ・トレイルズ

(2012/2014/2016)

✉ niki.shrestha@samarth-nepal.com

URL greathimalayatrails.com

グレート・ヒマラヤ・トレイルズは、ネパールで山や丘をハイキングできるようにするトレイルネットワークである。グレート・ヒマラヤ・トレイルズは西のヒムラヤダルチュラからエベレストとアンナプルナの人気トレッキング地域及びドルパとマカルバルンの辺鄙なトレッキング地域を通して東のカンチェンジュンガまでの範囲内で、ヒマラヤ全体としてトレイルの象徴とされている。

● 韓 国

大邱綠色消費者連帯

● 大邱オルレ

(2010/2011/2012/2014/2015/2016)

✉ culture803@dgcn.org

URL www.dgcn.org

大邱綠色消費者連帯 (NGO) の大邱オルレチームは2008年から2012年まで八公山に8の正規コース及び8のコースを繋ぐ4つのコースを含め、全部で12のコースを造成して現在まで運営・管理をしている。大邱オルレは季節ごとにコースの特徴がはっきりしていて難易度も様々で誰もが楽しめるウォーキングコースになっている。代表的なものとして三国時代の古墳が214基以上位置している不老洞古墳群から始まる八公山大邱オルレ6コース、ベビーカーや車いすでも利用できるバリアフリーでありながら美しい松林が自慢の八公山大邱オルレ1コース「北地藏寺コース」がある。また夏は涼しい木陰と小川のせせらぎの爽やかさを感じることができて昔の趣がそのまま溶け込んでいるような落ち着いた寺院を見ることが出来る八公山大邱オルレ7コースと8コースもある。



非営利団体クビギル

● クビギル

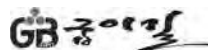
(2014/2015/2016)

✉ jnc1530@hanmail.net

非営利団体クビギルは江原道の古都原州地域の600年の歴史、文化、遺跡、生態、環境、伝説と説話を融合し、健康およびヒーリング、楽しみと思い出作りのための徒歩観光ルートを作成するため、2012年に地域有志20人で構成され活動している。現在15か所、280kmの予備コースを設計中である。2015年から本格的な表示及び便利施設の設置を地方自治体に要請した。

‘クビギル’の名前に示した通り、江原道の道の特色は、1) 山紫水麗な自然環境、2) 余裕を楽しむロマン、3) 様々な道と食、そして思い出を観光客と分かちあうことを目標に造成する。

原州市は、首都圏から1時間以内に位置し、2018年冬期オリンピック開催都市として、徒歩観光活用度が高く、南漢江、蟾江、雉岳山などの素晴らしい自然が楽しめる道となっている。



社団法人歩きたい釜山

● カルメツキル

(2011/2012/2014/2015/2016)

✉ happywalking@hanmail.net

URL www.greenwalking.co.kr

社団法人歩きたい釜山は、2009年10月に始まり、釜山カルメツキルおよび徒歩運動の民間コントロールタワーとしてその役割を果たしている非営利社団法人である。そして、道を歩くことの生活化、徒歩運動の専門化を目指し、釜山を快適な緑の都市に変貌させるため先陣をきっている。また、カルメツキルは、‘カルメギ (かもめ)’ と ‘ギル (道)’ の合成語で、カモメの形に似ている ‘之’ の字をモチーフに山、川、海を全て表現出来る釜山の名称で、市民公募を通じて2009年5月24日に選定された。

カルメツキルは、9コース、20の小さな区間で構成されている。短いコースは5.7km (ヘウンデ・ムンテンロード〜スヨンギ・ミンラクギョ) から、長い小コースは23km (グボ駅〜ソンジゴク水源地) に至る。9コース全て歩くには、大人でも約86時間かかる。



社団法人済州 (チェジュ) オルレ

● 済州オルレ

(2010/2011/2012/2014/2015/2016)

✉ julie@jejuolle.org

URL www.jejuolle.org

www.worldtrail.org

済州オルレは、済州島の海岸を沿って歩く美しいトレッキング・コースである。2007年9月に初めてコースをオープンした後、2016年8月、トータル26コース425kmに至る道が開かれている。‘自然を考え、地域と疎通する道’の哲学を込めた済州オルレは、‘韓国観光の星 (2010)’、‘韓国観光50年を輝かせた観光ギネス (2012)’、‘第一回インターナショナルトレイルアワード (2013)’、‘2014チェジュ観光大賞 (2014)’、‘第5回ホン・ジンギ創造人賞 (2014)’ などを受賞し、健全な徒歩旅行文化を広める模範的な事例として評価されている。



財団法人大韓ウォーキング連盟

(2016)



✉ kwf@walking.kr

URL www.walking.kr

財団法人大韓ウォーキング連盟は国際ウォーキング連盟 (IML WA) が公認した韓国唯一の代表団体である。また世界154か国、250団体が活動している世界生活体育連盟 (TAFISA) 加盟団体でもある。韓国原州市で開かれる原州国際ウォーキング大会、全国ウォーキング大会、韓国グランドスラムウォーキング大会を開催して傘下には韓国全国にわたって14の連盟を置いている。またウォーキング指導者養成課程を実施し、国民的ウォーキング運動の主導的な役割を果たしている。

社団法人ネポ文化スプギル

● ネポ文化スプギル

(2011/2012/2014/2015/2016)



✉ gtrmam@hanmail.net

URL cafe.daum.net/naepotrail
http://www.naepotrail.org

社団法人ネポ文化スプギルは、2010年～2013年にかけて忠清南道の西北地域である内浦地域の4つの市群(瑞山市、禮山郡、洪城郡、唐津市)と、中部地方森林庁、民間主体で修徳寺が力を合わせ作り上げた800里あまりの内浦文化森の道を管理、運営する非営利民間組織として2010年1月に創立された。内浦地域の中心にそびえ立つガヤ山を中心に「元曉の悟りの道」、「内浦キリスト教巡礼の道」、「百濟復興軍の道」、「内浦歴史人物-東学道」の四つのテーマがある。特に2014年には、フランチェスコ教皇が内浦地域を訪問し内浦文化の道の意味がより高まった。内浦ガヤ山に集中していた無分別な開発圧力から自然を守り、我々の生活共同体を美しく作るために始まった内浦文化森の道は、トータル320kmで24の正規コースと2の子支線がある。

社団法人森の道 (スプギル)

● 智異山トウルレギル (ジリサンギル)

(2010/2011/2012/2014/2015/2016)



✉ trail@trail.or.kr

URL www.trail.or.kr

智異山トウルレギルは、智異山共同体の夢を実現するために頑張っている。2004年生命平和巡礼団の智異山巡礼道の提案から始まった「智異山トウルレギル」は、歩きを通して回顧と省察の文化を育てている。3つの道(全羅南・北道、慶尙南道)、5つの市郡(求禮郡、南原市、山淸郡、河東郡、咸陽郡)、智異山周辺295Kmの環状22区間で構成されている。社団法人森の道は、8つの智異山トウルレギル・インフォメーションセンター(案内所含む)を運営し、智異山トウルレギル利用に関する情報提供、運営管理に関する業務を行っている。「智異山トウルレギル」は「民官共治」の精神から、森林庁と智異山園内の5ヶ市郡の支援のもと、利用者の協力や地域住民の参加を促している。「智異山トウルレギル」では、一周を繋げて歩く「イウムダン」、「ウォーキングフェスティバル」、「青少年たちの体験現場」、「社会的弱者の自己治癒キャンプ」、「様々な巡礼プログラム」などが行われている。より安全で、持続的社會、共に生きる社會のため省察の文化を育てている。

統營道文化連帯

(2011/2012/2014/2015/2016)



✉ ajises@hanmail.net

URL cafe.daum.net/tytrekking

통영길 문화연대

統營道文化連帯は、歴史文化都市である統營を道を通じて感じるため造られた非営利団体である。統營は、美しい風景と共に至る所で美しい物語があり、文化芸術を導く芸術の里である。美しい多島海の中心地統營は、526の島があり、海を眺めながら山鳥のさえずりを楽しむことができる。

統營道文化連帯は、2011年9月から小規模のウォーキングフェスティバルを開催し、統營の隅々の美しい道を探し出し、人々と共に歩いている。統營道文化連帯は、幸せなウォーキングを実現するため、統營市の歩行環境の実態を調査し、文化財及び案内板のモニタリングも持続的にやっている。2014「年南海の春日」と共に「匠人之道 (Craftsmen's Way)」を造成し、持続的に統營芸術家の道を造成して行く計画である。

非営利民間団体ヨガンギル

●ヨガンギル

(2011/2012/2014/2015/2016)



✉ rivertrail3@naver.com

URL www.rivertrail.net

非営利団体「ヨガンギル」は、南漢江の歴史と文化、生態の重要性と優秀性を広め、それらを文化的資産として保全、活用する事で、人間と自然の健康性を回復し、相生の社会を実現する目的で活動している。

「ヨガン」は、驪州（ヨガン）を通る南漢江を示す。驪州の人々は、川を驪川と愛称で呼ぶほど、川に対する愛情が他より強かった。ヨガンギルは、京畿道驪州郡に位置し、名称からわかるように、川がテーマとなっている道である。京畿道驪州郡は、首都圏に位置し、川が驪州地域の中心部を通る地理的特徴を備えている。

●ロシア連邦

「ジェニシェニ」沿海地方ウォーキングリーグ

●「ジェニシェニ」ウォーキングリーグ

(2016)



✉ walkerprim@gmail.com

URL zhenshen-tour.sitecity.ru

旧ソ連とロシアでは唯一の組織で、1990年からスポーツ・健康を維持するウォーキングを新しいスポーツとして促進している。本社会組織はスポーツ、健康、エコ、観光、エクストリーム、ハイキング分野では26年間活動している。

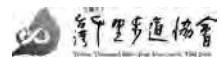
独自に開発した沿海地方における93のハイキングルートの中に33のルートで金賞を受賞した。15のルートは2001年、2002年、2003年、2005年に沿海地方のベスト商品として認め、14のルートは2002年、2003年、2005年にロシアのベスト100商品に入った。また、52の様々な大会の賞を受賞した。

●台湾

社団法人台湾千里步道協会

●台湾トレイル

(2015/2016)



✉ tmitrail2006@hibox.hinet.net

URL <http://www.tmitrail.org.tw>

台湾千里步道協会は、優美な山と海の景色および人文歴史遺産の保護に取り組んでいる。2006年から地域コミュニティ及びボランティアと一緒に草の根運動が起こり、その後、3,000km以上の台湾全島の環状トレイルを完成させた。「自然トレイルを失わせない、セメントトレイルを拡大させない」を目指して、トレイルボランティアを育成し、郊外の山トレイルの舗装状況の調査、トレイル学などを普及させる等の仕事に取り組んでいる。都市街の中では、緑の通行優先権と自然の道を推進している。地域コミュニティ郊外の山では、トレイルの市民参加と環境を守ることに重点に置いている。

●トルコ

トルコ文化の道協会

●トルコ文化の道（リシアンウェイ）

(2012/2014/2015/2016)



✉ huseyineryurt@yahoo.com

URL www.cultureroutesinturkey.com

kateclow@trekkinginturkey.com

www.trekkinginturkey.com

トルコ文化の道協会は、トルコ全域で実務団体を連合し、設置された非営利団体である。本協会は、オフィス兼ショップを運営している。

現在、120kmから600kmまでの17のトレイルを始め、当日徒歩旅行が可能なトレイルクラスター4カ所も管理している。

ヨーロッパ

● デンマーク

ヨーロッパ徒歩旅行者協会

● ヨーロッパ長距離 トレイル E1-E12

(2012/2014/2015/2016)

✉ President@era-eww-ferp.com

URL www.era-eww-ferp.com



ERA-EWW-FERP

ヨーロッパ徒歩旅行者協会（以下ERA）は1969年に設立された。ヨーロッパ33か国に55の加盟団体を持つ。最も新しい加盟団体は、歩くことが人々の健康だけでなく、観光産業とも非常に関連が強いヨーロッパ南東部にある団体である。

ERAはヨーロッパ内の3百万人の会員と数百万人の非会員の旅行者を代表する存在である。加盟団体の多くはウォーキングの環境整備（道標の設置、小屋の建設など）や会員活動の企画に長い経験を持ち、100年以上の歴史を持つ団体もある。

● ギリシャ

ギリシャの道

● キティラハイキング

(2014/2015/2016)

✉ info@pathsofgreece.gr

URL www.pathsofgreece.gr



ギリシャの道はギリシャ全域のハイキングトレイルの開発と国際的な広報を専門とする共同団体である。このような団体はギリシャ中探しても他には存在しない。2010年の設立以降、ギリシャ国内の様々な地域で多くのハイキングトレイルを開発している。

● アイルランド

クレア・ゲットサイドトラックド

● ルー・アバーラ・ファーム・ループ

(2016)

✉ ehogan@cldc.ie

URL www.clare-getsidetracked.ie



2015年に開発されたクレア・ゲットサイドトラックドは、アイルランドのクレア市でのアウトドアを含む銘柄である。市での主要な観光地を紹介するウェブサイトはアウトドアに関する情報の拠点である。トレイルに関する情報やダウンロードできる地図やガイドへのリンクや次回のイベントなどの記載がある。ソーシャル・メディアや道沿いの標識でPRしている。クレア地方発展会社の農業地域レクリエーション役員のエウェン・ホーガン氏が団体を管理している。

● スペイン

ガリシア観光庁、シャコベオ計画管理協会

● カミノ・デ・サンチアゴ(セント・ジェームズ・ウェイ) (2014/2016) (2011/2012/2016)



✉ francisco.singul@xacobeo.org
xerencia.xacobeo@xunta.es

URL www.turismodegalicia.es
www.xacobeo.es

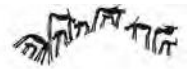
聖アゴボの亡骸が横たわっているスペインのサンティアゴ・デ・コンポステラ・カテドラルに向かう巡礼の道。1200年に至る巡礼の歴史を持つ道である。フランス・パリ等から出発しピレネ山脈を越えスペインの東から西へと北部を横断するコースが約900kmも及ぶ。アメリカのジョンミュアトレイル、カナダのウェストコースとトレイルと共に、'歩く者の夢' と呼ばれる世界3大トレイルの一つである。

アフリカ

● 南アフリカ

リム・オブ・アフリカ

● リム・オブ・アフリカトレイル (2012/2014/2015/2016)



Rim of Africa
Cape Mountains and Trails Initiative
Cederberg to Outeniqua

✉ info@rimofafrica.org

URL www.rimofafrica.org

リム・オブ・アフリカは、北部にある名高いセダーバーグ野生保護区から東部にあるオウテニカマウンテンまで、ケープ・マウンテンを横断する山岳地域を主体とした長距離トレイルである。リム・オブ・アフリカ、またはその区間を歩くことは、南アフリカのこの地域の偉大さやユニークな生物多様性を発見する機会である。毎年トレイルシーズンには、ヒョウの足跡をたどったり、九千種の植物種を楽しむ。

北アメリカ

● カナダ

ブルース・トレイル保全協会

● ブルース・トレイル (2010/2011/2012/2014/2015/2016)



✉ jrandle@brucetrail.org

URL www.brucetrail.org

ブルース・トレイル保全協会は、慈善団体としてナイアガラ断層 (Niagara Escarpment) を沿って歩ける道を始め、生態通路 (conservation corridor) 作りに力を注ぎ、ユネスコ指定世界生物保全地域自然生態系を保護し、自然環境に対して責任をもつ大衆活動を促すことにその目的がある。ブルーストレイルは、カナダで最も長く、古いトレイルで、ナイアガラ断層を沿ってナイアガラからトボモリ (Tobermory) まで続くこの道は、メイントレイルの長さが 885km、サイドトレイルは400kmに達する。

Bruce Trail
CONSERVANCY

● コスタリカ

センデロ・パシフィコ連合

● センデロ・パシフィコ

(2016)

✉ nat@mountainsteward.net

URL senderopacifico.net (準備中)



コスタリカのセンデロ・パシフィコ連合は、モンテベルデ雲霧林保護区とニコヤ湾内のマングローブ地帯を結び、自由に利用できるトレイルと山小屋のネットワークである。ベルバード生物回廊に位置しているため、野性生物生息地、土地利用区、農業地域等、様々な地帯を通過する。レジャー、教育、保全、地域の発展を重点項目としている。

● パナマ

パナマ徒歩財団

(2016)

✉ caminandopanama@gmail.com

URL www.caminandopanama.org



パナマ徒歩財団は、より多くのパナマ人がウォーキングの利点を認識する事で健康的で環境に配慮した国づくりに役立つと信じている。そのため、スペシャルイベント、基本的なトレイル情報及び地方社会に直接的に役立つ新たな道路造りの支援を通じて、パナマでのトレイルに基づいたアウトドアコミュニティを育成する。

● アメリカ合衆国

アメリカン・トレイルズ協会

● アメリカン・トレイルズ

(2011/2012/2014/2015/2016)

✉ green49@aol.com

URL www.americantrails.org



アメリカン・トレイルズは、米国の非営利政府機構である。28年間にわたり、米国人の生活の質の向上のため、フォーラムの場となり、促進役としての役割を担ってきた。すべてのトレイル利用者やトレイル活動にとって利益となるよう、トレイル、グリーンウェイ（歩行者自転車専用道路）、ブルーウェイ（ウォータートレイル）、といった国のインフラへのアクセスの促進、保全、保護、提供をはかっている。

ハット・トゥ・ハット・インフォ

(2016)

✉ sdemas@carleton.edu

URL Hut2hut.info



ハット・トゥ・ハット・インフォ (Hut2Hut.info) は長距離徒歩旅行者やスキー・自転車を利用する旅行者向けのトレイルや宿泊施設を調査し、記事の作成や情報発信を行っている。トレイル沿いにある旅行者のための小屋、ホテル、B&B (ベッド・アンド・ブレイクファスト) プラットフォーム上のテント、ホテル、寺院など様々な宿泊施設を調査している。また、楽しい旅を求める人のために、世界中のトレイルに関する旅行記も作成している。

PBR ハワイ&アソシエイツ

(2016)



✉ vshigekuni@pbrhawaii.com

URL www.pbrhawaii.com

PBRハワイ&アソシエイツ法人は、NGO団体ではなく、トレイルや公園の両方の設計を行う民間の土地計画及び景観設計会社である。プナモク沿岸トレイル文化遺産標識、コオリナ沿岸公園改善、ハエナ州立公園マスタープラン、カハヌガーデンマスタープラン、クキオ・アンキアリン・ポンド管理プランといったプロジェクトが同社のウェブサイト上で紹介されている。

ハワイ州土地・自然資源局森林・野生生物課 ナ・アラ・ヘトレイル&アクセスプログラム

(2016)



✉ Aaron.Lowe@hawaii.gov / Dan.K.Smith@hawaii.gov / Moana.Rowland@hawaii.gov

URL Hawaii Trails.org

Torrie.L.Nohara@hawaii.gov / Clement.Chang@hawaii.gov

「ナ・アラ・ヘレ」はハワイ州のトレイルとその利用に関するプログラムである。一部のトレイルに一般の立ち入りが出来ないことや、歴史あるトレイルが開発の脅威にさらされていることに関する人々の懸念に応えるため、1988年に設立された。ナ・アラ・ヘレは近年ますますトレイルの保全、公共・商業的レジャー活動に関する規制問題や新たな法的問題に関わっている。



南アメリカ

● ブラジル

世界自然保護基金ブラジル

(2016)

URL www.wwf.org.br

世界自然保護基金（WWF）は、人材とテクノロジーによる社会運動を築くことにより、保護区を支援する革新的モデルを設立し、この事業に新しい市民を呼び込んでいる。この包括的なプロジェクトでは、3,000kmにおよぶ長距離トレイルを通じて、国内4州を結び、景観保護と領土開発を平行させて行う。これは、公園の維持と人々の健康改善のための新しい世界的な動向である。この運動の目的は、共通点を持つ他国と経験や情報を交換することにより、本プロジェクトを強化することである。これにより、新たな資金モデル、オンライン・プラットフォーム、一般利用支援（特に長距離トレイル用）を含む、革新的なトレイル支援のアプローチ強化し、長期的な社会参加を促し、他国から実際の経験を共有することができる。

オーストラリア

● オーストラリア

ビバルマン・トラック

● ビバルマン・トラック

(2014/2015/2016)

✉ mike@peregrinewa.com.au
linda@bibbulmuntrack.org.au

URL www.bibbulmuntrack.org.au



西オーストラリア州のビバルムトラックは、世界有数の生物多様性ホットスポットであるオーストラリア南西部の、最も美しく野生的な地域に1,000kmに渡って広がっている。

9つの田舎町と多くの景勝地を通り抜け、旅行者はディ・ウォーク（近距離の徒歩旅行）と地方の宿泊施設での温かいもてなしを楽しむことも、6～8週をかけてトラックを完走することも出来る。

ビバルマン・トラック財団は、州政府の公園・野生生物局をトラックの管理、保全、マーケティングの面で支援するために作られた、地域密着型の非営利団体である。

西オーストラリア州公園・野生生物局

● 西オーストラリア内トレイル

(2014/2015/2016)

✉ kerstin.stender@dpaw.wa.gov.au

URL www.capetocapetrack.com.au
www.trailswa.com.au



公園・野生生物局は、西ヨーロッパの大きさに匹敵する260万km²もの壮大な西オーストラリア州内で、400以上のトレイルを管理しており、12,500km以上の海岸線を有する。トレイルの一部はTrails WA のホームページでも見ることができる。特に良く知られているのはケプトゥ・ケープ・トラックで、ルーウィン・ナチュラリステ公園をナチュラリステ岬からルーウィンの灯台まで縦断するように125kmに渡り伸び、壮観で広大な崖の頂上からの景色や、昔のままの砂浜から隣接するンガリ・ケープス・マリン・パークを見渡せる。ビバルマン・トラックもまた有名なウォーキングトレイルである。

トレイルWA(西オーストラリア)

(2016)

✉ linda@bibbulmuntrack.org.au

URL www.trailswa.com.au



トレイルWAは西オーストラリア州内のトレイルのマーケティングや広報を行う独立団体である。トレイルの情報を収集・供給することで、より多くの人にトレイルを利用してもらうことを目的としている。

ワールドトレイルズカンファレンス鳥取大会実行委員会名簿

(順不同・敬称略) H28.12.1現在

| 番号 | 役職名 | 所属団体 | 職名 | 氏名 | |
|----|------------------------------|---------------------------|-----------|-------|--------|
| 1 | 関ウ ォー キン グ 係 | 会長 鳥取県ウォーキング協会 | 会長 | 山田 修平 | |
| 2 | | 委員 鳥取県ノルディック・ウォーク連盟 | 支部長 | 岸田 将志 | |
| 3 | | 副会長 NPO法人未来 | 理事長 | 岸田 寛昭 | |
| 4 | 地 域 | 委員 新日本海新聞社中部本社 | 総局長 | 宇田川 靖 | |
| 5 | | 委員 公益財団法人鳥取県国際交流財団 | 理事長 | 能勢 隆之 | |
| 6 | | 監事 倉吉商工会議所 | 会頭 | 倉都 祥行 | |
| 7 | | 委員 三朝町商工会 | 会長 | 松原 弘文 | |
| 8 | | 委員 湯梨浜町商工会 | 会長 | 中島 守 | |
| 9 | | 委員 琴浦町商工会 | 会長 | 井木 久博 | |
| 10 | | 委員 北栄町商工会 | 会長 | 福井 利明 | |
| 11 | | 委員 公益財団法人とっとりコンベンションビューロー | 理事長 | 石村 隆男 | |
| 12 | | 副会長 公益社団法人鳥取県中部医師会 | 会長 | 松田 隆 | |
| 13 | | 委員 鳥取中央農業協同組合 | 代表理事組合長 | 福山 巖 | |
| 14 | | 副会長 一般社団法人鳥取中部観光推進機構 | 会長 | 岩崎 元孝 | |
| 15 | | 委員 倉吉観光マイルス協会 | 会長 | 牧野 光照 | |
| 16 | | 委員 三朝温泉観光協会 | 会長 | 新藤 祐一 | |
| 17 | 委員 湯梨浜町観光協会 | 会長 | 中島 守 | | |
| 18 | 委員 琴浦町観光協会 | 会長 | 松岡 義雄 | | |
| 19 | 委員 北栄町観光協会 | 会長 | 山 柊 敬一 | | |
| 20 | 委員 一般財団法人鳥取県観光事業団 | 理事長 | 衣笠 克則 | | |
| 21 | 委員 公益社団法人鳥取県観光連盟 | 会長 | 中島 守 | | |
| 22 | 委員 一般社団法人日本旅行業協会中四国支部鳥取地区委員会 | 副委員 | 塚田 武志 | | |
| 23 | 委員 倉吉市ホテル旅館組合 | 組合長 | 名越 宗弘 | | |
| 24 | 委員 はわい温泉・東郷温泉旅館組合 | 組合長 | 中島 伸之 | | |
| 25 | 委員 三朝温泉旅館協同組合 | 理事長 | 岩崎 元孝 | | |
| 26 | 委員 関金温泉旅館組合 | 組合長 | 樋口 稔起 | | |
| 27 | 副大会長 鳥取中部ふるさと広域連合 | 広域連合長 | 石田 耕太郎 | | |
| 28 | 行 政 | 委員 市 | 倉吉市 | 市長 | 石田 耕太郎 |
| 29 | | | 三朝町 | 町長 | 吉田 秀光 |
| 30 | | | 湯梨浜町 | 町長 | 宮脇 正道 |
| 31 | | | 琴浦町 | 町長 | 山下一郎 |
| 32 | | | 北栄町 | 町長 | 松本 昭夫 |
| 33 | | | 大会長 県 鳥取県 | 知事 | 平井 伸治 |

協賛企業



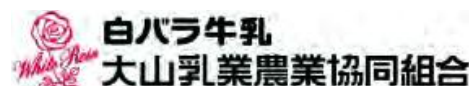
永伸商事株式会社



公益財団法人 とっとりコンベンションビューロー



有限会社ウノ・コーポレーション



アサヒコンサルタント株式会社

有限会社共栄組

株式会社中電工倉吉営業所

株式会社鳥取銀行

三朝温泉観光協会・三朝温泉旅館協同組合

株式会社モリタ製作所

株式会社井木組

宝製菓株式会社

東宝企業株式会社

株式会社ホテルセントパレス倉吉

有限会社向井組

米久おいしい鶏株式会社

株式会社エナテクス
中国電力株式会社鳥取支社
西谷技術コンサルタント株式会社

倉吉信用金庫
公益社団法人鳥取県中部医師会
西日本旅客鉄道株式会社米子支社

神鋼機器工業株式会社
鳥取県中部森林組合
株式会社明治製作所

山本印刷株式会社
梅津酒造有限会社
元帥酒造株式会社
中井酒造株式会社
株式会社アスコ
倉吉市ホテル旅館組合
株式会社ジーアイシー
株式会社新興螺子
公益社団法人鳥取県中部医師会立三朝温泉病院
中山精工株式会社鳥取工場
はわい温泉・東郷温泉旅館組合

farm garden チトのゆび
株式会社江原酒造本店
高田酒造株式会社
福羅酒造株式会社
有限会社井手添建築設計事務所
株式会社高野組
株式会社ジェミニ物産
すなば珈琲
一般社団法人鳥取県薬剤師会中部支部
パープルタウン株式会社
株式会社宮本

馬野建設株式会社
大谷酒造株式会社
鳥取県酒造組合
藤井酒造合資会社
株式会社エパークリーン
小林薬局有限会社
株式会社重道組
せきがね湯命館
鳥取部品株式会社
株式会社バルコス
有限会社室山商店

WALKING
RESORT
TOTTORI

「鳥取の自然にふれあい、自然と共にウォーキング！」

鳥取中部ウォーキングリゾートのブランドマークには、私たちをより魅力的にしてくれる自然と共に歩こうという想いがイメージされています。



古いアフリカのことわざ、“To go fast go alone, but to go far go together”（早くいきたいなら一人で、遠くへ行きたいならみんな）から来ています。未来を見据えた長期的な視野を持つ、グローバルなトレイル・コミュニティとしてのWTNのビジョンを、的確に表している言葉です。そして、異なる文化や地域の人々がともにトレイルを歩く楽しみも表しています。一緒に歩く楽しさは、本当の楽しみであり、平和を構築するものでもあります。